

大阪総合保育大学「こどもぼうさい」に参加

～自分の命・体を瞬時に守る「ぼうさいダック」と「新聞紙スリッパ・ワークショップ」を実施

日本損害保険協会近畿支部（委員長：東口 嘉仁・三井住友海上火災保険株式会社執行役員 関西地区担当）では、11月16日（日）に大阪総合保育大学の学園祭で初めての開催となる「こどもぼうさい」に近畿支部防災博士（※1）の岡野博美さんと当支部茨木職員が「ぼうさいダック（※2）」と「新聞紙スリッパ・ワークショップ（※3）」を実施しました。

「こどもぼうさい」は、「子どもをまんなかに、遊びや日常の学びから楽しく『いのちを守る力』を育てる」と目的としていることから、当支部では、近隣から参加の親子や大学生・大学院生・教員に「ぼうさいダック」と「新聞紙スリッパ・ワークショップ」を体験してもらいました。

当日は、茨木職員からクイズと30年前の阪神・淡路大震災の経験談を話した後に、地震、火事、交通安全、不審者のカードで、災害や危険から命や体を守るポーズを覚えてもらいました。火事の説明では併せて「おはしも（避難の合言葉（※4））」を、不審者の説明では「いかのおすし（防犯の合言葉（※5））」の意味を伝えました。

大学院生からは「ぼうさいダックでは、わかりやすく災害時のポーズを学べることを教えてもらい感謝している。また、新聞紙で簡単にスリッパが作れることを知り、幼児期の子どもでも作れると思った。」、また、大学教員からは「学生から大学の授業でも取り上げて欲しいという声がある。ぼうさいダックと新聞紙のワークショップのどちらも体験できて良かった。学生が保育現場で活かせるようになると良いと思う。」という声がありました。

当支部では、今後も防災博士や関係機関・団体等と連携し、各種防災教育の普及啓発に取り組んでまいります。

※1 防災博士とは…近畿地区における安全・防災活動に対し、積極的に協力いただける方を「防災博士」として委嘱し、地域のリーダーとして安全・防災活動に貢献しています。

※2 ぼうさいダックとは…子どもたちが安全・安心の「最初の第一歩（ファースト・ムーヴ）」を実際に身体を動かし、声を出して遊びながら学んでもらうためのカードゲームです。

<https://www.sonpo.or.jp/report/publish/education/0008.html>

※3 阪神淡路大震災の経験から、物が散乱した中を歩くとき身近なもので代用になる新聞紙でスリッパを折り、卵パックの上を歩く体験をしてもらいました。

※4 「おはしも」とは…「お」さない、「は」しない、「し」やべらない、「も」どらない。

※5 「いかのおすし」とは…知らない人について「いか」ない、知らない人の車に「の」らない、「お」起きな声を出す、「す」ぐ逃げる、大人の人に「し」らせる。



防災クイズを出題



地震のときは「ダック」のポーズで頭を守る



新聞紙スリッパを作成する参加者



新聞紙スリッパで卵パックの上を歩く参加者